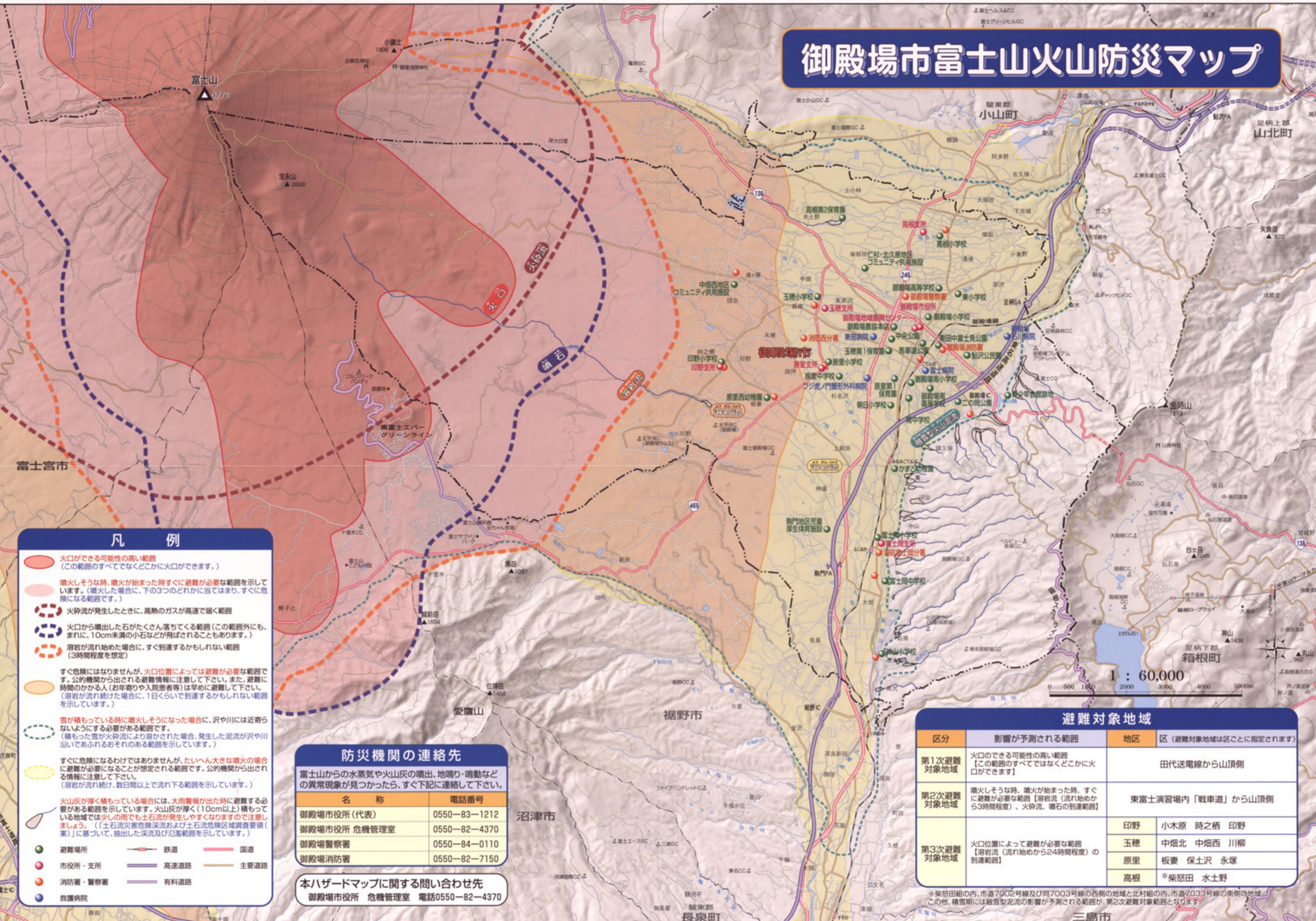


御殿場市富士山火山防災マップ



富士山ハザードマップ作成の目的

■富士山の地下約15kmを震源とする低周波地震が、平成12年10月～12月に約500回、平成13年4月～5月に約300回と非常に多く観測されました。この低周波地震はマグマの活動と関連していると考えられており、あらためて富士山が活火山であることが認識されました。

■平成14年から15年にかけて観測された低周波地震は、月平均15回と一時期に比較すると回数は減り、現時点（平成16年3月）においては富士山が噴火するような兆候はありません。

■しかし、万一噴火しそうになつたり噴火した時に備えた防災対策は、計画しておく必要があります。そのためにこのハザードマップは、想定される火山活動によって、どの範囲までどのような影響ができるのかを市民に知っていただき、皆さんが自らの安全を確保するためにはどう対処すればよいのかを認識していただく目的で作成しました。

■なお、このハザードマップは過去の富士山の噴火に関する調査をもとに作成されたため、実際に噴火した場合と内容が異なる部分が出てくる場合もあります。

火山灰(かざんばい)の到達範囲

火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合、広い地域に火山灰が降ります。季節によって風向きが変わるために、火山灰の到達範囲は変わります。この図はすべての季節を重ねて描いています。

火山灰があつたら…

- 灰を吸わないようにするためマスクを着用しましょう。
- 富士山の近くでは火山灰だけでなく小石が降ってくることがあるので、やむを得ず外出するときはヘルメットや防災ズキンをかぶります。
- 家は窓を閉めて建物を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップしやすくなります。また、雨が降っているとワiperが使えず危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。



噴火しそうな時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。
(噴火した場合に、下の3つのどれかに当たればまり、すぐに危険になる範囲です。)

火碎流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲

火口から噴出した石がたくさん落ちてくる範囲（この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。）

溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲（3時間程度を想定）

溶岩流（ようがんりゅう）

溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲（3時間程度を想定）



高熱の溶岩が斜面を流れ、家や道路を埋め近くの木々を燃やします。流れの速さは人が歩く程度なので、余裕を持って逃げることができます。

すぐ危険にはなりませんが、**火口位置**によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間のかかる人（お年寄りや入院患者等）は早めに避難して下さい。

（溶岩が流れ続けた場合に、1日くらいで到達するかもしれない範囲を示しています。）

すぐに危険になるわけではありませんが、たいへん大きな噴火の場合に避難が必要になることが想定される範囲です。公的機関から出される情報に注意して下さい。

（溶岩が流れ続け、数日間以上で流れ下る範囲を示しています。）

火口ができる可能性の高い範囲
(この範囲のすべてでなくどこかに火口ができる。)

この図は仮に富士山が噴火した場合に、溶岩流・噴石・火碎流などの影響が及ぶと考えられる範囲を示すものであります。全般的な方角に同時に発生することを意味するものではありません。また、実際の噴火活動時には、このマップに示した範囲外に影響が及ぶ可能性もあります。

この地図は、平成16年3月時点において、富士山ハザードマップ検討委員会より報告された結果をもとに作成されたものです。

噴石（ふんせき）

火口から噴出した石がたくさん落ちてくる範囲（この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。）



噴火時に火口から放り飛ばされる直径数cm以上の岩の破片や軽石といいます。大きな噴石が当たると、人は壊れ、けがをしたり死ぬこともあります。とくに火口から半径2km以内は噴石がたくさん飛んでくるので危険です。1707年の宝永噴火では、上空の強い西風に乗って、火口から10kmほど離れた場所で20cm程度の軽石が飛んできました。さらに20km離れたところでも数cmの軽石が飛んできました。とくに風下では、マップに着色されていない範囲でも噴石に注意して下さい。溶岩や噴石が多い時は丈夫な建物内にいましょう。やむを得ず外出する場合にはヘルメットを着用して十分注意して行動しましょう。

火碎流（かさいりゅう）

火碎流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲



高温の岩石・火山灰・火山ガスの混合物が斜面を高速で流れ下り、巻き込まれると死亡する場合があります。自動車より速く流れるので、早めに避難する必要があります。

融雪型火山泥流（ゆうせつがたかざんぢゆう）

雪が積もっている時に噴火しそうになった場合に、沢や川には近寄らないようにする必要がある範囲です。
(積もった雪が火碎流により溶かされた場合、発生した泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。)



雪が積もっている季節に噴火が始まると、火碎流などの高温の岩で雪が解けて、斜面の土砂を取り込んで高速で流れ下ります。おもに谷底など低いところを流れますが、あふれて広がることもあります。山頂付近から一気に流れ下るので早めの避難が必要です。

避難に備えて

●避難する場合は、以下に注意しましょう

■忘れてませんか？

1 戸締り、電気、ガスの元栓を確認しましょう。

2 貴重品は忘れずに持参しましょう。

3 非常持ち出し品を確認しましょう。

4 外出中の家族のために、避難先を書いたメモを残しましょう。

■避難する場合は…

1 市役所や消防団などの指示に従い、落ち着いて行動しましょう。

2 お年寄り、赤ちゃんのいる人、体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。

3 小石が降ってくることがあるのでヘルメットなどで頭を守りましょう。また灰を吸い込まないようにマスクやゴーグルをつけましょう。

4 くばらには有毒ガスがたまりやすいので、近づかないようにしましょう。

■避難場所は…

1 人数を確認し、逃げ遅れた人がいないか確認しましょう。

2 お互いに助け合いましょう。

3 ラジオやテレビ、同報無線などの情報を注意しましょう。

●噴火しそうな時、噴火が始まった時には

気象庁が発表する火山情報 デマやうわさに惑わされないようにしましょう。

テレビやラジオのニュース、市の無線などを聞いて正しい情報を得ましょう。

避難勧告などの指示がある場合には従いましょう。



富士山の火山活動に関する情報が、「噴火警報」、「噴火警戒レベル」として発表されます。

●この情報は、噴火災害軽減のため気象庁から発表され、NHKなどの報道機関や各市町から発信されます。
(御殿場市では同報無線（屋外子機・戸別受信機）、広報車などによりお知らせします。)

●この情報は、危険な範囲や防災対応に応じて5つのレベルに区分し、取るべき行動をお知らせします。

●富士山が噴火しそうな時には、情報に注意し、万一に備えて避難の準備をする等、適切に行動しましょう。

●この他、火山活動の月間情報などは「火山の状況に関する解説情報」で発表します。

*これまで発表されていた「緊急火山情報」「臨時火山情報」「火山観測情報」は廃止されました。

●この情報は、噴火災害軽減のため気象庁から発表され、NHKなどの報道機関や各市町から発信されます。
(御殿場市では同報無線（屋外子機・戸別受信機）、広報車などによりお知らせします。)

●この情報は、危険な範囲や防災対応に応じて5つのレベルに区分し、取るべき行動をお知